

<p>市政モニターに関すること</p> <p>総務市民局広聴課</p> <p>担当：森部、南谷</p> <p>TEL：093-582-2527</p>	<p>アンケート内容に関すること</p> <p>環境局ネイチャーポジティブ推進課</p> <p>担当：椿、平井</p> <p>TEL：093-582-2239</p>
---	---

令和8年1月30日

令和7年度 第9回市政モニターアンケート
「北九州市の生物多様性について」
結果概要

北九州市では、令和7年5月に「北九州市生物多様性戦略 2025-2030」を策定し、「都市と自然との共生」を実現するため、様々な取り組みをしています。

そこで、今後の取り組みの参考とするため、北九州市の自然環境や生物多様性の大切さ、自然とふれあいや生きものを守る活動についてのアンケート調査を実施しました。

I 調査概要

調査対象者 市政モニター102人（うち、回答者90人 回収率88.2%）

調査実施日 令和7年11月4日～令和7年11月17日

実施方法 インターネット調査

II 調査結果概要

1 北九州市の自然環境

回答者の約8割が自然に関心があると回答。北九州市の自然として思い浮かぶ場所は、「平尾台」、生きものは「ホタル」が最も多かった。

- 自然に対して関心が「ある」は82.2%、「ない」は1.1%、「どちらでもない」は16.7%であった。
- 北九州市の自然として思い浮かぶ場所として、「平尾台」が88.9%、「皿倉山」が61.1%、「山田緑地」が54.4%であった。

2 生物多様性について

生物多様性の認知度は、言葉と意味を知っている人が約33%、言葉は知っているが意味は知らない人が約43%、言葉も意味も知らない人が約23%であった。少なくとも生物多様性の言葉を知っている人への質問では、生物多様性の重要性について知っているとは回答した人は約7割であった。

自然とのふれあいや生きものを守る活動への参加について、最も多い回答は「特に何もしていない（58.9%）」であった。一方、約4割の回答者が活動に参加したり、日常的に生物多様性の保全につながるような行動を心がけていた。

- 「言葉も意味も知っている」が33.3%、「言葉は知っているが意味は知らない」が43.3%、「言葉も意味も知らない」が23.3%であった。
- 生物多様性の重要性を「知っている」と答えた人は、回答者全体の68.1%であった。
- 自然とのふれあいや生きものを守る活動への参加について、「特に何もしていない（58.9%）」、「自然とのふれあいや生きものを守る活動に参加していないが、日常的に生物多様性の保全につながるような行動を心がけている（27.8%）」等の回答があった。

3 北九州市生物多様性戦略

北九州市生物多様性戦略を「知っている」と答えた人は1割未満と少数で、年齢層は30歳代、50歳代、60歳代であった。このうち、戦略の内容について「よく知っている」、「ある程度知っている」の回答を合わせると100%であった。

ネイチャーポジティブについては、「知らない」との回答が約8割を占めた。

- 北九州市生物多様性戦略を「知っている」と回答した人は全体の6.7%であった。
- 北九州市生物多様性戦略を知っていると回答した人に対し、この戦略の内容について質問したところ、「よく知っている(33.3%)」、「ある程度知っている(66.7%)」との回答があり、「知らない」といった回答はなかった。
- ネイチャーポジティブについては、「言葉も意味も知っている(7.8%)」、「言葉は知っているが意味はわからない(13.3%)」、「知らない(78.9%)」といった回答であった。

4 北九州市の自然環境保全の取組

北九州市の自然環境保全への取組については、「知らない」が約半数と最も多かった。「知らない」以外の回答では、「曽根干潟などの自然環境調査」、「カブトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業」、「北九州市の自然に関する小学校へ出張授業」等があった。

北九州市の自然環境保全に関する取組についての情報源は、「市政だより」と回答が約7割と最も多かった。このほか、「テレビ」、「インターネット」等の回答が多かった。

- 北九州市が行っている自然環境保全の取組については、「知らない(47.8%)」、「曽根干潟などの自然環境調査(36.7%)」、「カブトガニ産卵観察ツアーなどの自然体感事業(26.7%)」、「北九州市の自然に関する小学校へ出張授業(25.6%)」等の回答があった。
- 北九州市の自然環境保全に関する取組について知っていると回答された人の情報源は、「市政だより(68.1%)」が最も多かった。このほか、「テレビ(34.0%)」、「インターネット(25.5%)」等の回答があった。

5 響灘ビオトープ

響灘ビオトープを「知っている」と回答した人は全体の約6割であった。年齢別にみると、20歳代では「知らない(75.0%)」が3/4を占めていましたが、その他の年代では、「知っている」が多く見られました。

響灘ビオトープを「知っている」と回答した人のうち、「行ったことがある」人は全体の約半数であった。

響灘ビオトープが登録されている、「自然共生サイト」や「OECM」については、「知らない」人が多く、全体の約85%を占めていた。

響灘ビオトープを「知っている」と答えた人は全体の64.4%。年齢別では、20歳代が「知らない(75.0%)」が多かったが、その他の年代では、「知っている」人が多かった。

響灘ビオトープを「知っている」人のうち、「行ったことがある」人は全体の53.4%で、「行ったことがない(46.6%)」人をやや上回った。

「自然共生サイト」や「OECM」については、「知らない(84.4%)」が最も多かった。

6 希少生物の保護・保全及び特定外来生物

北九州市の希少生物については、カブトガニが最も多く、全体の約7割の回答があった。このほか、ズグロカモメ、ベッコウトンボ等の回答があった。

北九州市の特定外来生物については、セアカコケグモ（クモ類）が最も多かった。このほか、ヒアリ（昆虫類）、アメリカザリガニ（甲殻類）、ブルーギル（魚類）、ウシガエル（両生類）、アライグマ（哺乳類）等の回答があった。

- 希少生物は、カブトガニ（70.0%）、ズグロカモメ（20.0%）、ベッコウトンボ（11.1%）等の回答があった。
- 特定外来生物は、セアカコケグモ（70.8%）、ヒアリ（68.5%）、アメリカザリガニ（66.3%）、ブルーギル（55.1%）、ウシガエル（52.8%）、アライグマ（53.9%）等の回答があった。

7 北九州市の自然環境に関する取組等に対するご意見（一部）

【自然環境および生物多様性に関する現状】

- 外来種は怖い。
- 北九州は適度な都会でありながらホテルが観れるなど、自然あふれる都市。
- 自然環境を守るとはとても大切なこと。

【北九州市の生物多様性に関する取組について】

- 啓発活動が少ない
- 自然環境に関する取組、活動を身近で行っている人を知らない。
- 自然環境といいながら、田畑、山林を潰して宅地開発する意味が分からない。
- 環境方針を出して環境保全に努めている姿勢は素晴らしい。
- 県外の方にも北九州の豊かな自然環境を認知してもらい、街のイメージアップや観光に繋がる機会があれば良い。
- 地道な市民レベルの草の根的取組にも光をあてて欲しい。

【その他】

- 知らない事が多くあり勉強になった。
- 何かしないとと思っていますがどこから始めたらいいのかわからない。